

留学体験記 1

- 留学先大学：セント・メアリーズ大学
- 留学期間（実際の現地滞在期間）：2024年8月～2025年6月
- 学部・学科：国際教養学部 国際教養学科 グローバルスタディーズ専攻
- 留学時の学年：3年次

協定留学を目指したきっかけ

留学をしたいと思ったきっかけは、家族でした。私は両親がスペインとカナダに留学した過去を持ち、幼少期から留学生のホストファミリーをしていたため、子供のころから海外で過ごすことに興味がありました。両親を通じて、文化の違う外国で一定期間過ごすことでしか学べないことがあると教わり、留学したいと考えようになりました。大学入学後は外国語現地実習や Global Service Learning を通して文化や言語の違う人と一緒に生活し、1年の協定留学をしたいと強く思うようになりました。

授業について

セント・メアリーズ大学での授業は武蔵で受けていたものよりも難しく感じ、最初はついていくので精一杯でした。歴史や文学の講義で課される読書課題の量が多く、それに加えて毎回ブログを書く必要があったためスケジュール通りにこなすのが大変でした。しかし、自分の意見を言う機会が多かったので慣れてからは授業に参加できるようになりました。教材の内容もとても勉強になりましたが、先生や友達から学ぶことも多かったです。たとえば、Multicultural Literature の教授からテキサスで生まれ育った幼少期の話を聞いたり、友達の家族の話を聞いて文化的違いに気が付くこともありました。

また、武蔵にはない学部の授業を履修したこともいい経験になったと感じています。私は春学期にメディアライティングのクラスと、エンジニア用の Python のクラスを履修しました。メディアライティングのクラスでは記事の書き方、文章のスタイル、インタビューの仕方などを学びました。Woman History Week の展示で来校した方々、リサーチシンポジウムで発表する学生たち、学内の職員の方々など、何人かの人にインタビューをしました。彼らにアポイントメントを取ったり、初対面の人から有益な情報を聞き出したりしたおかげで、コミュニケーション能力が鍛えられました。Python の授業でも、わからないことをとにかく先生に質問したり、相談できる友達を必死に作ったおかげで、プログラミング能力はともかくとしてコミュニケーション能力が上がりました。なにより、新しいことにチャレンジすることはとても楽しく、社会や職業について知るいい機会にもなりました。

印象に残った経験

キャンパスの中で勉強だけして1年を終えてしまうのはもったいないと思い、たくさん外出をしたのもいい経験になりました。テキサスの中でも西に行けば牧場と丘があり、東に行けばヒューストン、ダラス、オースティンなどの都市が、北では自然豊かな Hill country と Gruene や Luckenbach でカントリーミュージックが楽しめ、南に行けばメキシコからのヒスパニック文化や海を味わうことができました。ユニークで何でもあるテキサスの魅力は外出でしか体験できなかったとおもいます。また、Thanksgiving にニューヨークに行ったり、学期が終わって2週間カリフォルニアに旅行をしたことで、アメリカの雄大な自然の美しさに触れることができました。

留学を通して得たこと

私にとってこの協定留学は、人生を変えるような10か月でした。大変なことも多かったです。その分コミュニケーション能力、助けを求める力、自己主張の大切さを学び、成長することができました。また、友人や先生など日々の交流や深い会話を通じて、自分と異なる価値観に対峙し、自分の価値観について考えることが多くありました。

日本帰国後には、日本の良い点とアメリカの良い点をより客観的に見ることができました。日本の食べ物や綺麗さ、サービスの高さ、24時間営業のコンビニエンスストアがありなんでも簡単に手に入る便利さなどは日本の魅力であるとアメリカにいた時に強く感じました。反対に、サンアントニオで感じた肩に力が入りすぎている雰囲気や家族を一番に考える価値観、人の温かさ、緑とともに発展している街並みなどは素敵だなと思いました。留学中は自分の内面を鍛えたり、価値観を見直したり、異文化理解のほかにも貴重な経験を積むことができました。今後は学んだことをもとに Capstone Project に取り組み、海外就職も視野に入れて自分の人生設計をしたいです。

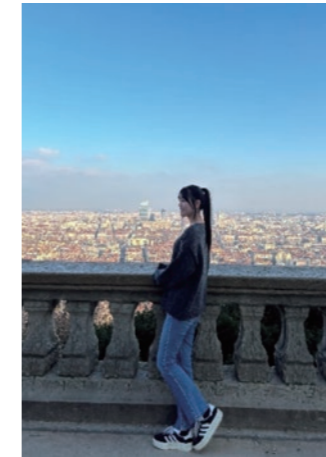


留学体験記 2

- 留学先大学：リヨン第3大学
- 留学期間（実際の現地滞在期間）：2024年8月～2025年5月
- 学部・学科：人文学部 ヨーロッパ文化学科
- 留学時の学年：3年次

留学先大学について

私はフランスのリヨン第3大学に留学しました。フランスの第2の都市と言われているリヨンは、ローヌ川とセーヌ川沿いに位置し、旧市街と新市街を同時に味わうことができる魅力的な街でした。特に旧市街では歴史的な街並みを堪能することができ、観光客も多いため常に賑わっていたのが印象的です。リヨン第3大学は、街の中心からメトロで10分ほどの場所に位置しており、バス、メトロ、トラムなど複数の公共交通機関でアクセスできます。敷地の広さは程よい大きさで、図書館がお気に入りの場所でした。勉強スペースはいつも人で溢れていて、自然と自分のやる気を鼓舞してくれる空間でした。



授業について

基本的に2つの必修科目があり、フランス文化の授業と、レベル別のフランス語の授業です。フランス文化の授業は名前の順で2グループに分けられ、フランスの歴史や政治、音楽や食などの文化、リヨンの街についてなど、幅広い分野の授業が行われました。フランス語の授業は授業開始前にクラス分けテストが行われ、結果を元に後日グループ分けをされます。グループのレベルに応じた授業が行われ、私のグループでは主に“作文の書き方”と“B1～B2レベルの文法”を学びました。私のクラスには、レベルの高い学生が多く、私の場合、文法ができて単語力とスピーキング能力が低いと自覚していたため、授業についていくことに非常に苦戦しました。そのため、授業が終わったその日に復習をし、後日もう一度復習、課題をやるという習慣をつけていました。正直自分がクラスの中で一番話せないという印象が強かったため、授業に行くたびに落ち込んでしまう日々でしたが、それでも習った表現は忘れないよう日々努力していました。テストでは、苦手だった作文を授業で学んだことを活かして、しっかりと書き終えることができた時は嬉しかったです。

必修以外の科目については、現地の学生の履修登録期間が終わった後に履修選択を行います。私はフランス語のレベル的に日本に関する授業をとることが多かったのですが、授業は基本的にフランス語で行われるため、リスニング力の向上や語彙を増やすことにおいて役に立つ授業だったと感じています。また、日本のことでも知らないことが多かったため、良い勉強になったと思います。

留学を通して得たこと

多くの人と関わる中で、「わからない」を「わからない」まま終わらせるのではなく、しっかりと聞いて、理解して、自分の気持ちを考えることの大切さを学びました。初めは理解していないことを伝えるタイミングを逃して、話についていくことができず、自分の意見も言えない苦しさを味わいました。その経験から、わからないことをしっかりと伝えることで理解を深め、考えを自分なりに表現してみるよう努力するようになりました。1人の友人から「あなたって面白い！」といわれた時は、自分のありのままを表現できているのかなと言う嬉しい気持ちと自信が生まれ、それ以降は「わからない」を伝えることが怖くなくなりました。

また、今回の留学を通して、自分でアクションを起こすことの大切さを実感することができました。数多くの行政手続きや1人で飛行機に乗ることすら初めてだった私にとって、不安はたくさんありましたが、周りの助けを借りながらも留学をやり切ることができました。留学生だから話しかけてもらえることは一切なく、自ら行動を起こして関係を作りに行くしかありませんでした。そんな中で培った行動力や、多くの人と関わることで身につけることができた環境の変化に前向きに適応する力は、今後社会に出た際にも活かしていけたらと思っています。

